

シグマ

12~24mmF4.5 - 5.6EX DG ASPHERICAL/18~50mmF3.5-5.6DC/55~200mmF4-5.6DC

デジタル一眼レフカメラ向けに開発された交換レンズ3製品

写真・解説：竹澤宏



12~24mmF4.5 - 5.6EX DG ASPHERICAL 価格:99,000円
18~50mmF3.5-5.6DC 価格:20,000円
55~200mmF4-5.6DC 価格:25,000円
問い合わせ:カスタマーサービス部 TEL03-3480-2301

35mmフルサイズでも使用可能なDGとAPS-Cサイズの撮像素子に最適化したDC

今回紹介するのは、シグマ 12~24mmF4.5 - 5.6EX DG ASPHERICAL、18~50mmF3.5-5.6DC、55~200mmF4-5.6DC の3本。いずれもデジタルカメラ用として開発されたレンズだ。

最近、よく耳にするようになった「デジタル用レンズ」だが、これには2通りの意味がある。一つはAPS-Cサイズのイメージサークルに合わせたレンズのこと。当然、ニコン、キヤノン、ペンタックスなどAPS-CサイズのCCDを持つ一眼レフデジカメ専用ということになる。デジタル一眼レフカメラであっても35mmフルサイズCCDを採用している機種には使えない。

もう一つは、CCDなどの撮像素子の特性を考慮して開発されたレンズのことで、デジタル撮影で最大の性

能を発揮できるように最適化されている。こちらは35mmフルサイズのイメージサークルを持っているので、フルサイズCCDのデジタルカメラでもフィルムカメラにも対応する設計だ。

近年発売になったレンズは、何らかの形でデジタルでの撮影も考慮した設計になっているはずだが、特にデジタル用途に最適化したものが「デジタル用」と銘打っている。

逆に言うと、現行製品であっても古くから発売されているレンズは、デジタル撮影を想定していない設計である可能性が高い。そのため、銀塩時代には名玉と呼ばれたレンズであっても、デジタルで使ってみたらへぼ玉だった、ということもあるはずだ。

シグマでは品番に「DG」と付くものがデジタルの特性に最適化設計したものであることを意味している。通常の35mmフィルムでの使用も可能だ。



また「DC」という品番のものは、APS-Cサイズのイメージサークルに合わせた設計のデジタル専用レンズ。キヤノン EOS Kiss Digital やニコン D70 などの発売により、デジタル一眼レフのユーザー層が広がったことで発売に踏み切ったのだらう。小型・軽量化されているのが特徴だ。

今回使用したカメラボディは、フジフィルムの FinePix S2 Pro。もちろん問題なく使えたが、ボディとの相性もあるので、AFや露出に関するコメントは差し控えたい。

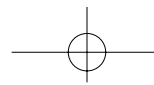
超広角で35mmフルサイズ対応の12~24mmF4.5-5.6EX DG ASPHERICAL

シグマ 12~24mmF4.5-5.6EX DG ASPHERICAL は35mmフルサイズで超広角12mm、画角122°という驚異の映像世界を手に入れられる数少ないレンズだ。

APS-Cサイズのデジタルカメラでの使用時に換算しても18mm相当の画角(約100°)が得られる。

ニコンマウントのデジタル一眼レフユーザーにとっては、AF-S DX Zoom Nikkor ED 12~24mmF4G が同じ画角なので、ライバル製品になるだろう。

主な違いは、DXニッコールがAPS-Cサイズ対応のデジタル専用レンズなのに対し、シグマは35mmフィルムでも使えるレンズであること。また、F値がDXニッコールは全域F4と明るめだが、シグマはF4.5~F5.6とやや暗めで、なおかつ変動F値であること。フィルターはDXニッコールが前面に取り付ける方式(77mm径)だが、シグマはリアにゼラチンフィルターを使うという特殊な方法になっている、といった点だろう。また、価格的にはシグマの方が安い。DXニッコールの方が小型・軽量だ。一長一短があるので、どちらが良いとは言えないし、選択に迷うところだ。



ただ、DXニッコールが開発発表からようやく発売にこぎつけたと思ったら、極度の品薄で手に入りにくい状態が続いたのに対し、アツという間に発売してしまっただけには勢いを感じる。需要を的確に判断し、タイミングよく発売できるというのも、単なる勢いではなく確かな技術力があるからなのだろう。

実際に使用してみると、第一印象は驚異のワイド感到脱帽。ついつい12mm側ばかりで写真を撮ってしまう。これだけのワイドレンズになると、当然構型のディストーションがあってもおかしくないだろうと思いつつも、実際にはそれほど気に障るレベルではない。むしろ良く補正されてると言えるだろう。

描写力も良好で、解像感、シャープ感、色の乗り方、コントラストなども満足のいくレベルだ。周辺部でも色の収差はなく、色が滲むようなことも無かった。逆光のフレアは出ないわけではないがシグマの15~

30mmF3.5-4.5EX DG ASPHERICALよりもずっと改善されているようだ。

シグマが品番に「EX」と付けるのは「Excellence」つまり優秀、上位機種であることを意味している。シグマのプライドにかけて世に送り出した製品と言えるのだろう。欠点といえば、重さと大きさ、F値の暗さだろうか。

2本で18~200mmの焦点域をカバーする小型・軽量・低価格が魅力のDCレンズ

シグマ18~50mmF3.5-5.6DC、シグマ55~200mmF4-5.6DCの2本は、シグマ初のAPS-Cサイズに特化したデジタル専用レンズである。シグマSA、ニコン、キヤノン、ペンタックスの各マウントを発売している。

18~50mmF3.5-5.6DCはスナップ常用レンズとしての絶妙なズーム域をカバーし、このレンズが一本ある



と便利だ。描写力は悪くないが、周辺部でやや色の滲みが見られた。

55~200mmF4-5.6DCは、超望遠域での撮影が手軽に楽しめるのが魅力のレンズ。ただし、超望遠域まで高コントラストを維持するほどの高級レンズではなく、200mm側では糸巻き型のディストーションが出るため、上級者にはやや不満が残る描写かもしれない。

この2本は、とにかく小型・軽量・低価格が最大の魅力。描写力も悪くはないが、高級レンズと比較するような対象ではないことも事実だ。いずれ、シグマの名にかけて「EX DC」という品番のレンズが登場する日が来て欲しいと、個人的には期待している。

【12~24mmF4.5-5.6 EX DG ASPHERICALの主な仕様】
レンズ構成:12群16枚 画角:122°~84.1° 絞り羽根枚数:

6枚 最小絞り(W端):F22 最短撮影距離:28cm 最大倍率:1:7.1 フィルター径:リア(ゼラチン) 最大径×全長/ 87×100mm 重量:615g

【18~50mm F3.5-5.6 DCの主な仕様】
価格:20,000円(シグマSA、ニコン、キヤノン、ペンタックス)
レンズ構成:8群8枚 画角:69.3°~27.9° 絞り羽根枚数:7枚 最小絞り(W端):F22 最短撮影距離:25cm 最大倍率/1:3.5 フィルター径: 58mm 最大径×全長/ 67.5×62mm 重量:250g

【55-200mm F4-5.6 DCの主な仕様】
価格:25,000円(シグマSA、ニコン、キヤノン、ペンタックス)
レンズ構成:9群12枚 画角:25.5°~7.1° 絞り羽根枚数:8枚 最小絞り(W端):F22 最短撮影距離:110cm 最大倍率:1:4.5 フィルター径: 55mm 最大径×全長 71.587.1mm 重量/310g